

各関係機関長 様

佐賀県農業技術防除センター所長

アスパラガス褐斑病の防除対策の徹底について ～発病前からの継続的な感染予防対策を～

近年発生が多いアスパラガス褐斑病が、すでに一部圃場で散見されています。本病は、感染から発病までの潜伏期間が長く、発病後では散布が遅れるほど効果は低下するため、発病前から（特に感染前から）の予防散布が重要です。

梅雨入り以降、本病の本格的な感染時期に入っていることから、下記事項を参考に、継続的な感染予防対策を徹底するよう生産者への指導をお願いします。



記

1. 発生概況

6月18～22日に県内8圃場を調査した結果、一部圃場で褐斑病の発生がみられ、平均発病株率は1.9%であり、平年および前年より多かった（表1）。

表1. アスパラガス褐斑病の平均発生株率(%)^{注)}

調査年	5月	6月	7月	8月	9月
本年(R3)	0	1.9			
平年	0.1	0.4	3.2	16.6	44.0
前年(R2)	0	0	7.1	50.7	91.4

注)毎月、中～下旬に調査

2. 今後の気象予報

福岡管区气象台が7月1日に発表した九州北部地方の1か月予報によると、向こう1か月の気候は、期間の前半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いと予想されており、本病の感染に好適な条件となっている。

3. 防除対策

- 1) 発病前から（特に感染前から）の予防散布が効果的であるため（図1）、約20日間隔の定期的な予防散布を行う。
- 2) 発生が確認された場合や、週間天気予報により曇雨天が続くと予想される場合は、散布間隔を短くする等の対策を徹底する。
- 3) 薬剤散布時は、十分な薬量で丁寧に散布する。また、外側からの散布に加え、ノズルを株内に差し込むなどして、薬液が内部まで到達するよう努める。
- 4) 通風を図るため、降雨時以外は原則として施設開口部を開放する。また、不要な茎葉は整理を行い、過繁茂を避ける。

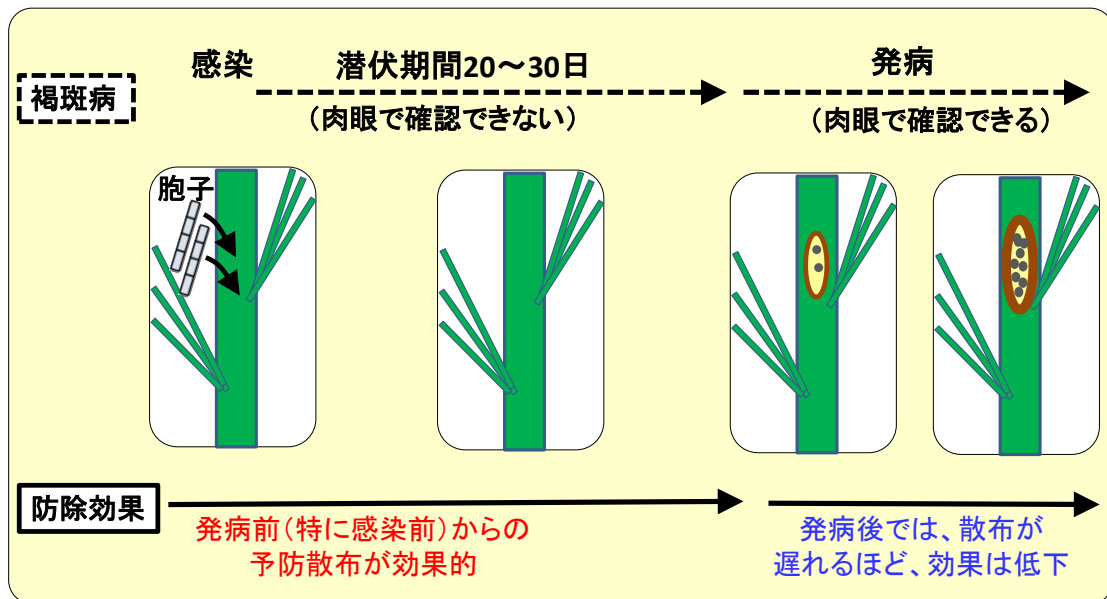


図1. アスパラガス褐斑病の発生と散布適期（模式図）

【参考】

アスパラガス褐斑病の病徴と生態

- 1) 病斑は、斑点病と類似しているが、本病は病斑の表面に肉眼で確認できる灰色～黒色の分生子塊を多数形成する（写真1）。
- 2) 感染から発病まで20～30日間と潜伏期間が長い。このため、病斑を確認した時点では、見た目の発病に加え、感染がさらに進んでいる可能性が高い。
- 3) 梅雨期以降に感染と発病を繰り返し、発生が増加する。夏の高温期に、発生が見かけ上、停滞することがあるが、夏～秋も感染と発病を繰り返し、防除対応が遅れると秋には多発生となる。



写真1. アスパラガス褐斑病の病斑(矢印先端は、分生子の塊)

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部
 〒840 - 2205 佐賀市川副町南里 1088
 TEL (0952)45 - 8153 FAX (0952) 45 - 5085
 Mail nougyougi.jutsu@pref.saga.lg.jp
 ホームページアドレス <https://www.pref.saga.lg.jp/kiiji00321899/index.html>

